

議会のあり方調査特別委員会 政策等検討分科会 記録	
開 会 年 月 日	令和8年1月15日
開 会 時 刻	午前9時59分
閉 会 時 刻	午前10時35分
出 席 委 員 名	◎辻 孝記 ○青沼陽一郎 杉村 剛 大西要一
	中村 功 上村和生 楠木宏彦 宿 典泰
欠 席 委 員 名	なし
署 名 者	—
担 当 書 記	奥野進司
協 議 案 件	1 予算・決算審査のあり方について
	・審査形態・審査方法について
	2 次回会議について
説 明 員	奥野議事係長、森田書記

会議の概要

辻会長開会を宣告し、直ちに会議に入り、「予算・決算審査のあり方について」を議題とし、各会派の意見を聞き取り、協議の後、次回に改めて協議することを確認した。その後、次回の会議についてを協議し、分科会を閉会した。

なお、協議内容は以下のとおり。

協議の内容

1 予算・決算審査のあり方について

・審査形態・審査方法について

前回、1月9日の分科会において審査形態・審査方法について、各会派での意見の取りまとめを依頼した件について、各会派から意見を聴取し、協議を行い、次回、改めて協議し、結論を出すことを確認した。

各会派の意見については下記のとおり。

【発言】

- ・大西委員（未来創成）…… 全員が参加できる方法がよい。(4)全議員で審査を行う方式は、物理的、効率的に難しい。分科会方式は、3つの分科会に分かれるが、全員が参加して関わるができることから、(1)分科会方式が望ましい。
- ・上村委員（勢風会）…… 全員が参加できる、また、専門的、効果的審査が可能であるということから、(1)分科会方式が望ましい。
- ・中村委員（ネクスト）…… 全員が参加できるため、(1)分科会方式が望ましい。
- ・宿 委員（政友会）…… 分科会方式を行ってきたが、専門性が感じられない。(常任委員会と同じ)一部の議員で行っていくことは、課題が多く残ると思う。11名、12名の特別委員会にすることにより、常任委員会と違った議論ができるため、(3)役選時にグループ分けする方式がよい。
- ・楠木委員（日本共産党）…… できるだけ皆が参加できる審査形態で考えるが、分科会方式であると常任委員会で議論していること以外議論ができなくなる。(2)13名程度の特別委員会方式だと選出の仕方によって問題が生じる可能性がある。(3)の役選時にグループ分けする方式は、準備期間をつくることができること、ふだん議論していないことについて関わるができる、個々の議員の地域、市民とのつながりから議論することができる。
- ・青沼副会長（未来伊勢研究会）… 全員が参加し、全ての項目に関わることができることが必要と考えるため、(3)役選時にグループ分けする方式が望ましい。(1)分科会方式であると、専門性だけにこだわってよいのか。(4)全議員で審査を行う方式は、効率的に難しく、本会議の前に全員で採決することもどうかと考える。
- ・辻 会長（公明党）…… (1)分科会方式については、10年間行ってきて、その成果を考えると厳しいものがある。以前の13名程度の特別委員会方式、決算審査を反映した予算審査ができる2グループ方式を考えると、(3)役選時にグループ分けする方式が効率的にも望ましい。また、全項目について議論することにより行政に対しての理解が深まるということを考えると、全議員が予算・決算どちらか

で全項目を審査できる(3)が望ましい。

参考（青沼副会長から発表）

- ・市民の声：（4）全議員で審査を行う方式がよい。全議員が審査について責任を負う、情報格差が生じない、市民に説明しやすい。賛成者反対者が明確である。
- ・みらいをつくる会：（3）役選時にグループ分けする方式がよい。全ての項目について審議ができることは、議員の成長、視野を広げることに有効である。
- ・参政党：（4）全議員で審査を行う方式がよい。（1）分科会方式は、委員会などの振り分けも希望どおりに決まっているわけではないため、不公平感が生まれる懸念がある。（2）13名程度の特別委員会であると、その都度選出する手間を考えると煩雑で実用性に欠ける。（3）役選時にグループ分けする方式と（4）全議員で審査を行う方式を考えた際、（4）がよい。

2 次回会議について

【開催日時】 1月30日（金）午後2時

上記署名する。

令和8年1月15日

会 長